

**1 単元名** いのっこまつりのおもちゃせつ明書を書こう  
教材名「二年一組、はつ明じむしょ」(東京書籍2年下)

**2 付けたい力** 書こうとする題材を集め、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えて書く力  
(B 書くこと ア 課題設定や取材 イ 構成)

### 3 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「いのっこまつりのおもちゃせつ明書を書く」ことを位置付けた。分かりやすい説明書を作成するためには、他者に自分の製作意図を正しく伝えることが求められる。そのために、受け手の立場に立った分かりやすい文章の組み立てにしたり、適切な事柄を材料として集めたりすることが必要となってくる。このことが、本単元のねらいとする「経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること」(B 書くことア)及び「自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」(B 書くことイ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えられる。

### 4 単元について

(1) 児童観 (在籍\*人)

<実態調査>前「書くこと」教材「できるようになったこと」の学習より

項 目	自力解決できる	支援が必要
① 段落に気を付けて文章が書ける。	*人	*人
② 見たことや感じたことを短い文章に表すことができる。	*人	*人

児童は、2年生の1学期に「できるようになったこと」の教材で、特に条件を与えずに、自分ができるようになったことを、実際に記述する学習を行った。その際、ほとんどの児童が自分ができるようになったことについては書くことができたが、思いをそのまま羅列したものが多く見られた。そこで、学習を通して、どのような事柄をどのような順序で書いていくとよいのかを学習した。

その結果、半数以上の児童が自力で「はじめ・中・おわり」のまとまりを意識して書くことができるようになってきた。しかし、書く材料を自分で選んで文章にする活動の際には、話の順序がばらばらになったり、主語と述語がねじれてしまったりするようなことが見られた。本単元では、これまで身に付けてきた段落意識とともに、適切な材料を選んだり、相手を意識して順序に沿って叙述したりする力を育てていきたい。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領(B 書くこと)の第1学年及び第2学年の指導事項 ア「経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。」及びイ「自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」に重点を置くこととする。

教科書教材「2年1組はつ明じむしょ」は、児童の身の回りにある道具を少しだけ変えて「こんなものがあつたらいいな。」という発明品を考え出すという、児童が想像する楽しさや喜びを味わえる魅力的な教材である。発明したものによって、自分だけでなく、友達を助けたり幸せにしたりするためには、発明した物の使い方や便利さを相手に分かりやすく伝えなければならない。「友達に分かりやすく伝える方法を身に付けたい。」という思いが、さらに学習意欲をかきたてると考える。

「分かりやすく伝える」ためには、まず必要な材料を集め、それをもとに伝える順序を考えながら簡単な構成を組み立てることが必要である。本教材では、道具の特徴や使い方、工夫点など、必要な材料を「はつ明メモ」に集める活動を行う。そして、どういう順序で伝えると相手が分かりやすいかという観点から、文章の構成を組み立てて「しょうかいカード」を書く。ここで学んだことが「いのっこまつりのおもちゃせつ明書を書く」ことに活用される。

「いのっこまつり」は生活科の学習の一環として、毎年、井野小に隣接する井野保育所の園児を招待し、1年生も交えて一緒に歌ったり遊んだりするという、2年生が中心になって行われる活動である。

「いのっこまつりのおもちゃせつ明書」には、児童が園児たちのために一生懸命考えたおもちゃの「遊び方」や「工夫点」、「うまく遊べるコツ」、「おすすめのことば」など、招待した園児たちが楽しく遊んでくれるように、説明に必要な事柄や言葉を集め、順序や構成を考えて書くことになる。

本単元で付けたい力「必要な事柄を集めて順序に沿って簡単な構成を考えて書く力」を養うことができる考える。

### (3) 指導観

単元の導入にあたっては、昨年1年生の時に、2年生に招待してもらった「いのっこまつり」の様子を、当時の写真を見ながら思い出し、「今年は2年生として、1年生と保育園児を招待する番だ。1年生と保育所の子がいっぱい楽しんでくれるいのっこまつりにしよう。」と児童の気持ちを十分に盛り上げる。さらに「楽しく遊んでもらえるようなおもちゃを考え、その遊び方が分かりやすいような説明書も作ってあげよう。」と学習の目的意識と相手意識を、どの児童もはっきりつかめるようにする。普段は手作りのおもちゃで遊んだ経験があまりない児童のために司書教諭と連携を図り、おもちゃの作り方を紹介した本を教室に集めておく。そして、児童がいつでも参考にできるように環境を整えておく。

第2次においては、教科書教材「2年1組はつ明じむしょ」で、身の回りにある道具の中から発明に使えるような道具を選んで発明品を考え、その紹介カードを書く学習を中心に行う。その学習を通して、書く事柄を集めたり、相手に分かりやすい構成を組み立てながら、順序よく書く方法を学んでいく。

まず、発明のために選んだ道具を改めて色々な観点から観察する活動を通して、形・大きさ・使い方など、紹介するものの特徴がはっきり伝わるような材料を「はつ明メモ」に書く。カードにはさらに便利にするためのアイデアや、あったらいいなと思える機能について友だちと交流しながら、取材し、書き足していく。この際、集まった材料の中から書くために必要な事柄を厳選する力も付けていきたい。

そして、このはつ明メモをもとに紹介カードを書く。書く際には、集めた材料をただ羅列するだけでなく、相手が分かりやすく読むことができる順序を考えて、構成を組み立てながら書くことの大切さを実感できるようにする。そのために、構成をばらばらにして書いたモデルカード（バッドモデル）と構成を考えて順序よく書いたモデルカード（グッドモデル）を提示し、2つを比較させることを通して、事柄の順序に沿った構成のよさに気付かせたい。さらに、順序を表す言葉「まず」、「次に」、「それから」や説明する時に分かりやすくなる言葉「くふうしたところは～です。」、「～してみてください。」をキーワードカードにして提示しながら、この学習で獲得させたい言葉についても押さえ「おもちゃせつ明書」を書く時にしっかり使える言葉としたい。

第3次では、第2次で学んだ紹介カードの書き方を活用して、おもちゃ説明書を書く。そして実際に作ったおもちゃと説明書の下書きを基に交流タイムを行う。ペアの友達が作ったおもちゃを園児の立場になって、説明書を読みながら試し遊びをして検証し、分かりやすく書けていると

ころや分かりにくいところなどをアドバイスし合うことで、相手に分かりやすく記述するためにはどんな順序で書いたり、書き方を工夫したりすればよいかに気付かせたい。

実際のいのっこまつりでは、児童の書き上げた「おもちゃせつ明書」を遊びコーナーに掲示するとともに、字の読めない園児たちにはそれを読み上げて、遊び方を説明する。園児が、自分の書き上げた説明書で、楽しく遊ぶことができた姿に触れることにより、児童たちに、自分の伝えたいことを自分の書いた文章で分かりやすく伝えることができた満足感を味わわせたい。

## 5 単元の目標

- 書こうとする題材に必要な事柄を集め、進んで書こうとする。 (関心・意欲・態度)
- 書こうとする題材に応じて、書くために必要な事柄を集めることができる。 (書くことア)
- 事柄の順序に沿って、簡単な構成を考慮することができる。 (書くことイ)
- 言葉には、事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

## 6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・書こうとする題材に必要な事柄を集め、進んで書こうとしている。	・書こうとする題材に応じて、書くために必要な事柄を集めている。 ・事柄の順序に沿って、簡単な構成を考えている。	・言葉には、事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付いている。

## 7 単元の指導計画（11時間扱い）本時は9時間目

第1次 園児が楽しめるいのっこまつりのおもちゃを作ろうという目的をもち、単元の学習計画を立てる。 …… 1時間

第2次 教材「2年1組はつ明じむしょ」を読み、説明に必要な材料を集める方法や、伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるための構成や言葉について学ぶ。 …… 5時間

第3次 「いのっこまつりのおもちゃせつ明書」を書き、プレいのっこまつりを開いて感想を伝え合う。 …… 5時間

時	主な学習活動	主な評価
1	いのっこまつりの「おもちゃせつ明書」説明メモを作る。	・おもちゃ説明に必要な事柄を集めている。 (書く能力)
2	説明メモを基に、「おもちゃせつ明書」の下書きを書く。	・読み手に分かりやすいように文の構成や順序を考えて書いている。 (書く能力)
③ 本時	友だちの説明書を読みながら、おもちゃで試し遊びをして検証し、アドバイスし合う。	・構成や順序に着目しながら、相手に分かりやすい文章を書くための改善点を見付けている。 (書く能力)
4	アドバイスをもとに修正した下書きを使って、ペアを変えて再度試し遊びをしながら、「あそびせつ明書」を完成させている。	・友達との交流を通して、「おもちゃせつ明書」を意欲的に書き直している。 (書く能力)
5	「プレいのっこまつり」を行い、完成した「おもちゃせつ明書」をもとに、お互いのおもちゃで楽しみながら感想を伝え合う。	・書き上げた説明書を読み合い、感想を伝え合っている。 (書く能力)

## 8 本時の学習

### (1) 目標

友達が書いた説明書を読んで実際に試し遊びをし、考えを伝え合うことにより、さらに分かりやすい文を書くための改善点に気付くことができる。

### (2) 準備・資料

説明書、個人で作ったおもちゃ、アドバイスカード（2色）、説明書の文例、実物投影機、スクリーン、赤鉛筆、青鉛筆、定規

### (3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価	
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>楽しく遊ぼう！！いのっこまつり ～おもちゃのあそび方の せつめい書を 分かりやすくしよう～</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題を板書する際は、学習の意図が理解しやすいよう改行する位置に配慮する。</li> </ul>	
	T1	T2
	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルの説明書を読んでもみるにより、読み手に分かりやすいように書けているかを検証する学習であることを確認する。</li> <li>生活科で実施する「いのっこまつり」で招待する園児に楽しんでもらい、自分たちのお祭りを成功させるための大切な活動であることを伝え、児童の意欲を喚起する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の様子を観察し、課題が把握できているかを確認する。</li> <li>配慮を要する児童に対しては、必要があれば補足説明をし、課題を把握するとともに、意欲を喚起するようにする。</li> </ul>
<p>2 今日の学習の進め方を確認する。 【全体タイム】</p> <p>＜約束を確認する。＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明書に書いてある通りに遊ぶ。</li> <li>分かりやすかったことに赤線を引く。</li> <li>分かりにくかったところに青線を引く。</li> <li>アドバイスすることを考えておく。</li> <li>終了時刻を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ（2～3人）は、自分の考えが少しでも相手に伝えられるように、同じおもちゃやおとなしい児童同士にならないよう意図的に編成する。</li> </ul>	
	T1	T2
	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時は説明書の分かりやすさを検証する時間なので、途中で遊び方が分からなくなったり、疑問をもったりしても友達に聞かずに、まずは、説明書通りに遊んでもみることを確認する。</li> <li>赤線と青線の引き方について、黒板に提示してあるモデル文で実際にやってみせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アドバイスカードを配付し、このあとの活動で使用することを伝える。</li> <li>支援を要する児童には、この後の教室移動の時に持って行く物を忘れないように、おもちゃと筆記用具、アドバイスカードをまとめておくように助言する。</li> </ul>

3 移動して検証する。 【自分タイム】

< 2年教室 >

ヨーヨー，サッカー，輪投げ，ボール入れ，ストロー飛ばし，ゴム飛ばし，紙飛行機，ビー玉送り，空き缶積み，ブンブンごま

< 3年教室 >

ボール入れ，トントン相撲，ボールすくい，ボーリング，空き缶積み，ビー玉送り，魚釣り，けん玉

4 書かれていた説明書について，友達と交流する。 【交流タイム】

- ・説明書の分かりやすかったところ，分かりにくかったところをアドバイスする。

○成功した時

- ・順序が分かりやすかったよ。
- ・ここが詳しく書いてたよ。
- ・コツが書いてあって楽しかったよ。

●失敗した時

- ・順序が違ってたよ。
- ・こんなことを書いたらもっと分かりやすいよ。
- ・このところは本当はどうすればよかったのかな。

5 本時の学習を振り返る。

【振り返りタイム】

- ・自分の説明書が分かりやすくか書かれていた。
- ・友だちにアドバイスができた。
- ・友達の質問に応えることができた。
- ・友達からアドバイスがもらえた。

6 次時への学習の見通しをもつ。

- ・遊ぶ場所を十分に確保するため，二つのグループに分け，2年教室と3年教室に分かれ，十分な活動場所を確保する。
- ・T1が2年教室，T2が3年教室を担当し，それぞれの教室で指導するとともに，安全に活動できるように配慮する。
- ・遊びに夢中になっている児童には，説明書通りに遊んで，アドバイスをしてあげることを見つける時間であることを確認する。
- ・おもちゃが壊れてしまったときは簡単に修理し，活動が続けられるようにする。

- ・説明書通りに遊んでみて分かりやすかったところ，書き方に工夫を加えた方がよい点などを伝え合い，説明書の構成や言葉遣いなど，自分が書いた説明書の改善点を見つけられるように声かけをする。
- ・おもちゃそのものの評価をしている児童には，よい点やそうでない点をどのように説明書に生かせばよいのか考えるように助言する。
- ・説明書は，読んだ人（保育園児）に使い方が正しく伝わらないといけないことを確認する。
- ・アドバイスの仕方は，どこを・どのように直すときよいか理由を添えて伝えることを確認する。
- ・自己評価欄に，友達のアドバイスをもらって，自分の説明書の改善点に気付くことができたか，自己評価する。

(評)友達と検証し合うことを通して，分かりやすい文を書くための改善点に気付いている。

【書く能力（ふりかえりカード）】

T1	T2
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちからもらったアドバイスを発表した児童に対し，その意欲を賞賛する。</li> <li>・友だちの説明書のよかったところを実物投影機で紹介し，他の児童が参考にできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮を要する児童には，振り返りカードの回答を口頭で話すよう助言し，話したことが記述できるようそばで支援する。</li> <li>・実物投影機で紹介する際，機器操作の補助に入る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は，さらに分かり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮を要する児童に本</li> </ul>

やすい説明書作りとおもちのバージョンアップ作業をすることを知らせ、意欲をつなげて締めくくる。

時のがんばりに対する称賛の言葉を投げかけ、満足感をもたせ、次時への意欲をつなげるよう温かく接する。